

2025年1月10日

御中

タキロンシーアイ株式会社 安富工場
技術グループ

T-INNOVATION 製リバイブ・モスト 試験結果報告

拝啓 時下益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお慶び申し上げます。さて、T-INNOVATION 製リバイブ（床材洗浄剤）及びモスト（溶剤除去剤）の試験が完了いたしましたので、下記の通りご報告申し上げます。ご査収のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 耐薬品性試験 (JIS A 1454)

① 試験内容

試験片：QA-433,QA-885,WB-002,WB-003,NE-144,NE-949

試験薬液：T-INNOVATION 製 モスト（溶剤除去剤）、リバイブ（床用洗浄剤）

試験環境：23℃

試験方法：JIS A 1454（高分子系張り床材試験方法：耐汚染性）

床材表面にろ紙を置き、試薬2mlを滴下して時計皿でおおい、24時間静置した後、中性洗剤を含む水で洗い、さらにアルコールで拭いて、表面を乾燥した清浄なガーゼで拭き取ってから1時間静置した後、滴下部分の色・光沢・材質の変化の度合いを目視で評価する。

② 試験結果

※写真は添付資料 別表-1 参照

○モスト

品番	結果
QA-433	変化なし
QA-885	変化なし
WB-002	変化なし
WB-003	変化なし
NE-144	変化なし
NE-949	変化なし

○リバイブ

品番	結果
QA-433	変化なし
QA-885	変化なし
WB-002	微量の白化
WB-003	微量の白化
NE-144	微量の白化
NE-949	軽度の白化

2. 除去官能試験（ウエス）

① 試験内容

試験片：QA-885,NE-949

試験薬液：T-INNOVATION 製 モスト（溶剤除去剤）、リバイブ（床用洗剤）
フエルネット株式会社製 強力シールはがし（比較用）
株式会社カンペハピオ製 非塩素系塗料はがし剤（比較用）

副資材：タキボンド#601、タキボンド#607、
エポシール PLUS（S-501）、タキシール#600（U-446）

試験環境：23℃

試験方法：試験片に各副資材を塗布し、（タキボンド#601、タキボンド#607 は 20 分経過後）
ウエスで拭きとる。拭き残った副資材に試験薬液を滴下し、5分放置する。

その後、試験薬液及び各副資材をウエスで拭き取り、副資材の除去性能とタキストロンの状態を確認する。

試験薬液の拭き取り方について、軽く拭きとった場合、軽く拭きとれなかった場合は強く拭きとった場合の計2種類の方法で行う。

② 試験結果

※評価基準：◎…ほとんど除去できた、またはタキストロンにほとんど異常がなかった

○…ある程度は除去できたが、完全には除去できなかった、またはタキストロンに軽度の異常がみられたが使用可能な程度

△…あまり除去できなかった、
またはタキストロンに軽度の異常がみられた

×…除去できなかった、
またはタキストロンに異常が見られた

—…未実施（軽く拭きとって除去できたので不要）

※写真は添付資料別表-2 参照

○モスト

	QA-433				NE-949			
	軽い力での拭きとり		強い力での拭きとり		軽い力での拭きとり		強い力での拭きとり	
	除去	異常	除去	異常	除去	異常	除去	異常
タキボンド#601	△	◎	○	◎	△	◎	○	◎
タキボンド#607	×	◎	×	◎	×	◎	◎	◎
エポシール PLUS	△	◎	○	◎	◎	◎	—	—
タキシール#600	○	◎	○	◎	◎	◎	—	—
備考、総評等	タキボンド#607を除いて比較的良好であった。タキシール#600で拭きとれなかった部分にはべたつきが見られた。 タキストロンに異常は見られなかった。							

○リバイブ

	QA-433				NE-949			
	軽い力での拭きとり		強い力での拭きとり		軽い力での拭きとり		強い力での拭きとり	
	除去	異常	除去	異常	除去	異常	除去	異常
タキボンド#601	○	◎	◎	◎	△	○	○	○
タキボンド#607	×	◎	×	◎	×	○	×	○
エポシール PLUS	△	◎	○	◎	◎	○	—	—
タキシール#600	△	◎	○	◎	○	○	—	—
総評等	タキボンド#607を除いて比較的良好であった。タキシール#600で拭きとれなかった部分にはべたつきが見られた。 タキストロンについて、QA-433に異常は見られなかったが、NE-949は微量の白化が見られた。							

○強力シールはがし（比較用）

	QA-433				NE-949			
	軽い力での 拭きとり		強い力での 拭きとり		軽い力での 拭きとり		強い力での 拭きとり	
	除去	異常	除去	異常	除去	異常	除去	異常
タキボンド#601	△	◎	△	◎	△	◎	○	◎
タキボンド#607	×	◎	△	◎	×	◎	△	◎
エポシール PLUS	×	◎	◎	◎	○	◎	—	—
タキシール#600	○	◎	◎	◎	◎	◎	—	—
総評等	エポシール PLUS・タキシール#600 は良好であった。 タキストロンに異常は見られなかった。							

○非塩素系塗料はがし剤（比較用）

	QA-433				NE-949			
	軽い力での 拭きとり		強い力での 拭きとり		軽い力での 拭きとり		強い力での 拭きとり	
	除去	異常	除去	異常	除去	異常	除去	異常
タキボンド#601	○	◎	◎	△	○	×	◎	×
タキボンド#607	○	◎	◎	△	△	×	○	×
エポシール PLUS	○	◎	◎	△	◎	×	—	—
タキシール#600	○	◎	◎	△	◎	×	—	—
総評等	除去性能は良好であった。 しかしタキストロン（特に NE-949）が溶けた。							

3. 除去官能試験（ブラシ）

① 試験内容

試験片：QA-885、NE-949

試験薬液：T-INNOVATION 製 モスト（溶剤除去剤）、リバイブ（床用洗剤）

フェルネット株式会社製 強力シールはがし

副資材：タキボンド#601、タキボンド#607、

試験環境：23℃

試験方法：2. の除去結果が乏しく、タキストロンに異常のなかった組み合わせを対象とする。試験片に各副資材を塗布し、（タキボンド#601、タキボンド#607 は 20 分経過後）ウエスで拭きとる。※1拭き残った副資材に試験薬液を滴下し、5 分放置する。その後、試験薬液及び各副資材を真鍮ブラシで研磨後、ウエスで拭き取り副資材の除去性能とタキストロンの状態を確認する。

除去剤できなかつた場合は、※1以降の作業をもう一度（計2回）行う。

② 試験結果

※評価基準：◎…ほとんど除去できた

○…ある程度は除去できたが、完全には除去できなかった

△…あまり除去できなかった

×…除去できなかった

—…未実施（1回で除去できた、及び2. の試験で良好な結果がみられた、またはタキストロンに異常がみられた）

※写真は添付資料別表-2 参照

○モスト

	QA-885		NE-949	
	1回目	2回目	1回目	2回目
タキボンド #601	◎	—	—	—
タキボンド #607	△	◎	—	—
まとめ	タキボンド#601、タキボンド#607 共に除去することができた。			

○リバイブ

	QA-885		NE-949	
	1回目	2回目	1回目	2回目
タキボンド#601	—	—	—	—
タキボンド#607	△	△	—	—
まとめ	タキボンド#607 はあまり除去できなかった。			

○強力シールはがし

	QA-885		NE-949	
	1回目	2回目	1回目	2回目
タキボンド#601	◎	—	—	—
タキボンド#607	△	△	×	×
まとめ	タキボンド#601 については除去することができた。 タキボンド#607 は除去ができなかった。			

4. 総評

1～3の試験結果より、除去・異常について良かったものを記載

	QA-885	NE-949
タキボンド #601	※1モスト リバイブ ※1強力シールはがし ※2非塩素系塗料はがし剤	モスト 強力シールはがし
タキボンド #607	※1モスト ※2非塩素系塗料はがし剤	モスト
エポシール PLUS	モスト リバイブ 強力シールはがし ※2非塩素系塗料はがし剤	モスト 強力シールはがし
タキシール #600	モスト リバイブ 強力シールはがし ※2非塩素系塗料はがし剤	モスト 強力シールはがし
まとめ	<p>モストは、一部真鍮ブラシを用いる必要があるが、すべて除去することができた。また、タキストロンに異常は見られなかった。</p> <p>リバイブは QA-433 について比較的良好であったが、NE-949 を白化させてしまった。</p> <p>強力シールはがしは、タキストロンに異常は見られなかったが、QA-433 の一部副資材で除去できなかった。</p> <p>非塩素系塗料はがし剤は除去性能については最も良好ではあるものの、タキストロンを溶かしてしまった。</p> <p>除去性能について上位なものより並べると、非塩素系塗料はがし剤→モスト→リバイブ→強力シールはがしの順番であった。</p> <p>※1 除去には真鍮ブラシが必要</p> <p>※2 タキストロンを溶かす可能性があるため注意が必要</p>	

5. 考察

試験結果より、ウエスのみの場合、QA などのエンボスがあるタキストロンは非塩素系塗料はがし剤、NE などのエンボスのない平滑なタキストロンにはモストが有効であると考えられます。

ただし、非塩素系塗料はがし剤はタキストロンを溶かしてしまう可能性があるため、滴下後に長時間放置しない、強く擦らない等の注意が必要になります。

また、真鍮ブラシを用いた場合、ウエスのみと比較し、より除去することが可能であり、特にモストについて良好な結果が確認できました。副資材によっては繰り返し行う必要がありますが、QA のようなエンボスのあるタキストロンにはより有効であると考えられます。以上